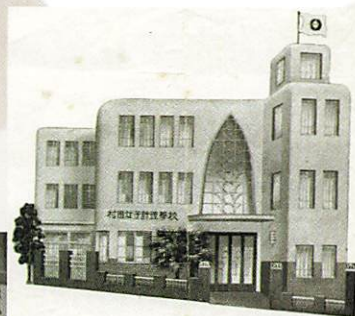


第三章

村田女子高等学校
村田学園小石川女子中学校
のあゆみ

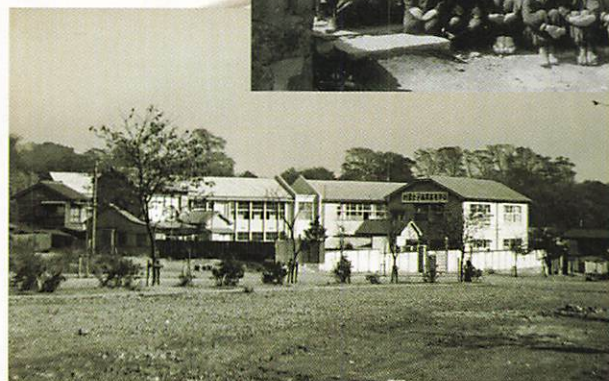




昭和6年頃の校舎



昭和20年頃の仮校舎



昭和30年頃の校舎



小石川校舎

昭和60年頃の登校風景



健歩会



現在の校舎・テラス・中庭



中学・高校登校風景

卒業記念レコード（昭和54年）



卒業記念詩集



学校新聞



村田女子高等学校 歴代校長



村田 照子(第二代)
(昭和50年4月～
平成17年8月)



村田 謙造(初代)
(昭和6年3月～
昭和50年3月)



伊藤 淑子(第三代)
高校(平成17年9月～現在)
中学(平成20年4月～現在)

百周年に寄せて

村田 女子高等学校
村田学園小石川女子中学校

校長 伊藤 淑子

村田学園創立百周年の大きな節目をここに迎えることができましたこと、卒業生の皆さんそして関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。学園が社会からその必要性を認められ、百年もの歴史を刻みましたことは、私学にとりましては大変な誇りであると申せましょう。

村田女子高等学校は、昭和六年、女性の社会進出の今日あることを先見した村田謙造によって、「女子の特性の開発」と「社会に貢献できる女性の育成」を目標に、村田女子計理学校として設立されました。今日までの間、変わらなかつたものの、大きく変わったもののそれぞれありますが、教育の原点はなんらぶれることなく、脈々と継承されております。

私が高等学校に着任いたしました時の理事長・校長は、村田謙造でありました。五年後に第二代理事長・校長に村田照子が就任、以後四〇年近く村田照子の背中を見て過ごしてまいりました。その中で受け継ぎ、今教職員に伝えているものは、「率先垂範」と「何事もあきらめないこと」です。これ

は生徒たちにも常々話していることで、教職員自らその姿勢を示すことが教育の第一歩であるとの信念に基づいているからです。そしてこの精神こそは、次の百年にもつなげていかなければならないものと確信いたしております。

生徒の気質も、時代と共に変わってまいりました。以前は、高校卒業と同時に就職する者がほとんどでしたが、現在は進学する者の方が圧倒的に多くなりました。ともすれば進学熱の高まりは、学力向上を第一義的に捉える傾向にありますが、いつの時代にも変わらぬ、社会での責任を果たす人格の形成こそが、私共教職員に課せられた最も大切な使命であります。

百周年に先駆け、平成一九年に村田学園小石川女子中学校を開校し、新しい時代に向けて「サイエンスレディの育成」を掲げました。今は、この中学校を大切に育ててまいりたいと考えております。

次の百年、村田学園がいつの時代にも必要とされるべく、今後とも教職員一同精進してまいります所存です。
(いとう・すみこ)

村田女子高等学校

新時代の女子教育を目指す

昭和六年三月六日、村田簿記学校に併設された「村田女子計理学校」を嚆矢とする。新時代の女子に必須な経済知識と計理上の技術を修得させ、練達有為の女性を養成することを目的とした。

校訓は「一、誠実、勤勉、清潔であれ 二、健康にして勤労にいそしむ人であれ 三、礼儀を厚くし、責任を重んじ、役立つ社会人であれ」というものである。四年制は、入学料三円、授業料（月額）五円五〇銭、自治会費（月額一円）での発足であった。

しかし、当時の女子の教育に対する庶民的な感覚は必ずしも前向きではなく、「四年制」という長期にわたる教育体制に躊躇する者が多かった。そのため、本来の女子計理学校の構想の一部であった「修業期間六ヶ月」のコースにも力を入れねばならなかった。その募集要項は次のとおり。

募集人員 一五〇名

A組 高等女学校卒業生 七五名

B組 高等小学校卒業生 七五名
学費 入学金三円

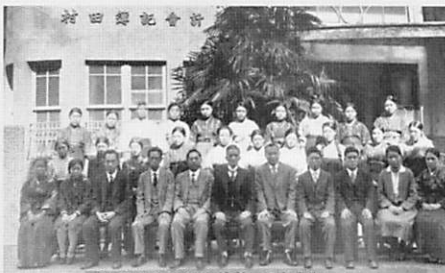
授業料（全期）四〇円

ほかに、地方出身者のための寄宿舎が校内に設けられていた。

開校後、第一回生を送り出したのは、昭和六年一〇月一四日であった。主流であったこの「六ヶ月制」は、やがて「一年制」、「一年六ヶ月制」と発展していくことになる。

昭和一二年一〇月一日付けの「村田学園新聞」には、「女子計理学校の拡張は急務中の最大急務」という見出しがある。その記事では、簿記学校、女子計理学校ともに入学者が増えたこと、また社会の要求に應えて役立つ人材を多く育成することなどが村田学園に課せられた使命の一つであると、さらに

質的に言えば、高等女学校卒業生に、六ヶ月や一年の教育を為すよりも、尋常小学校卒業生に村田女子計理学校において四ヶ年の専門的教育を施すことになれば、数段数倍の実



村田女子計理学校第1回卒業生

力を修得し得るか想像に難くないのである。

数字的に毎年五〇〇名以上の卒業生を出す
とすれば少なくとも二〇〇〇名以上を収容す
る校舎と設備が必要であろう。

と書かれている。

この意気込みが、二年後の新校舎建設へと導いた
のであった。

多彩な教科を盛り込んだ授業内容

昭和八年四月、東京府より乙種商業学校としての認可を受け、正式に商業学校の仲間入りをした。当時、全国には六〇校以上の乙種商業学校があり、実業学校令に基づく商業学校規定によれば、学科目は修身、読書、習字、作文、算術、地理、簿記、商事要項、体操その他であった。

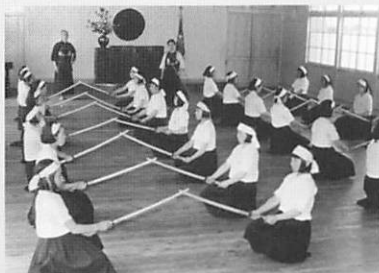
村田謙造はこの学校を創設するにあたり、崇拜する尾崎罌堂を訪ね揮毫を依頼した。神奈川県逗子で、同じ町内に居を構えていた因縁からでもあった。罌堂は、孫子の兵法の一節を選び「有算者勝（算あるは勝つ）」の言葉を贈ったのであった。昭和一四年一月、村田女子計理学校は、小石川区久堅町九八番地（現在、文京区小石川五―四〇―一八）に新築移転し、翌一五年六月末には紀元

二千六百年の記念事業としての講堂兼道場「貞風館」が完成した。

謙造は、大正三年以来、剣道の修行に精を出していた。範士高野佐三郎の道場で腕を磨き、その範士の指導と自ら学び取った経験から、道場は本格的なものを造りあげた。昭和一二年頃より教育内容に「練成」が加わるようになり、全国の学校に道場が作られていく風潮でもあった。しかし、女子の場合は道場での稽古は専ら「なぎなた」であった。江戸時代から女子が用いていた、という固定観念を払拭しきれなかったためであろう。剣道を教科に取り入れたのは、全国に先駆けてのことであった。

昭和一五年度の村田女子計理学校の教員組織は、専任教員八名、兼任（非常勤）教員八名であった。この年、兼任ではあるが剣道教士二名が着任している。

教科目は、「修身・公民・地理・歴史」「国語・英語・支那語」「作法・習字・図書・博物・作文・音楽」「体操・剣道」「家事・裁縫」「簿記・実践簿記・商品学・英語商業作文・商業計算・商事要項・珠算」「数学」と多彩であった。因に商事要項では、商業通論及び各論を教えていた。



剣道の授業風景

商業学校規定による
甲種商業学校の学科目
(昭和8年)

・修身	・経済
・読書	・法規
・習字	・簿記
・作文	・商品
・数学	・商事要項
・地理	・商業実践
・歴史	・体操
・外国語	・その他

戦前・戦後の混乱期を乗り越えて

昭和一八年二月、財団法人組織となり文部大臣認可の甲種商業学校へ昇格した。これにより、当時の専門学校（現在の大学）への進学資格を有することとなった。同時に、校名を「村田女子商業学校」と改称した。

しかし、昭和二〇年五月二五日の空襲で校舎を全焼してしまった。そこで本郷真砂町にある倉庫を借り、事務所は校長宅（西片町一〇番地）として授業を継続していた。その頃、前年閣議決定した「学童疎開実施要綱」に従い、国民学校初等科（三年から六年まで）の子供のうち縁故先のない子供を学校単位で地方に集団疎開させようという試みが、実施されていた。全ての国民が危険に晒されていた当時は、村田女子商業学校も例外ではなく、学校疎開を計画するが、この計画は実施直前に終戦を迎えることになる。

終戦からの一年間は、特に都市部ではあらゆるものが混乱し、日々の生活すら儘ならぬ状況であった。学校はほとんど休校状態が続くことになる。村田女子商業学校は一時中断ののち、借りていた倉庫で授業を再開したが、不自由な日常を過

ごしていた。しかし、新築した村田簿記学校へ移り、学校らしい体裁を整えたのは、昭和二二年一月のことであった。そんななかで、同年三月「教育基本法」及び「学校教育法」が公布された。これを受けて同年四月一日から新制度「六・三・三・四制」が発効した。

村田女子商業学校の当時（昭和二二年度）の状況は、専任教員四名（男三・女一）、兼任教員五名（男二・女二）、事務員一名（男）、用務員一名（男）の一一名、生徒数は、二年生二五名、三年生四二名、四年生四五名の計一一三名の三クラスで、この年度以降新入生は募集していない。授業料は一二〇円（月額）、後援会費三〇円（月額）の計一五〇円であった。しかし、新制高等学校の開校時も別科生（中学卒・一ヶ年）の募集は続けられていた。

村田女子商業学校の入学資格は、小学校卒業を必要とした。（正しくは昭和一六年三月公布による「国民学校令」の初等科六年）また、在学期間が四ヶ年であったため、昭和二二年度の二年生・三年生は新制中学生、四年生は旧制中学生に区分されることになり、校名も「村田女子商業学校」と「村田学園中学校」の二つを使用せねばならなかった。



昭和28年頃の校舎

昭和二三年三月、このような学制改革により村田女子商業学校は正式に「学校法人村田学園中学校・高等学校」と改称することになる。新制高等学校としての要件を備えると認められた結果であった。この年の四月、木造平屋三教室の校舎が再建された（この年度の入学者は別科生二三名）。謙造は西片町の自宅を手離し、校舎建設の資金としたため、新校舎の横に仮住宅をつくり、そこから村田簿記学校へ通勤していた。（注一）

新制高等学校としてのスタート

新制高等学校の制度が誕生して、多くの学校が移行、新設の準備をするなか、村田学園は簿記学校のみを経営していくか、高等学校の生徒を募集するかで選択で「一瞬の迷いがあった」と、のちに照子は雑誌の対談で話している。そのため「村田女子商業高等学校」と校名を変更し、昭和二六年四月開校に向けての準備は立ち遅れていた。

昭和二五年末からの広報活動は思うに任せず、それでも第一回生三四名が入学した。他校に遅れること三年であった。

しかし、その後の生徒の増加に伴い、昭和二八年を皮切りに、同三〇年、三一年、三二年と校舎

の増築が続けられていく。また、年ごとに教育内容も充実していった。

昭和二六年頃の様子を、元教員倉渙氏は次のように綴っている。

私がこの学校に就任したのは、確か昭和二五年一月初旬と記憶しています。当時の校舎といえはバラック（注二）建てではないのですが、それに近い木造平屋の三教室と、四坪位の事務室兼職員室のほかに、校長室と、名ばかりの衛生室兼小使室があっただけです。校庭といえは凸凹だらけで、雨が降れば至るところに水溜りができ、雪の降った後などは泥沼のようなぬかるみになってしまうのです。春から夏になると雑草が次々に生えてきて、自習の時間は「草取り」と日課がきまっていましたから、今と違って自習といえは生徒は悲鳴をあげていたのです。草でも手でとれるようなものなら良いのですが、夏休み中には五〇糶位にまで伸びて草原になってしまふのですから、これをわれわれの手で元の運動場らしいものにするには容易ならぬことでした。ある生徒の父兄から謙の御寄贈を受けて、草刈りに汗を流したことも想い出されます。全くこの雑草の跋扈には悩まされたものです。

（注一）終戦から昭和二四年頃まではインフレが続き、四年間で物価水準が一五〇倍にも上昇した。

（注二）バラック＝粗末な建物。仮設として応急的に建てられたもの。

平成30年度教職員数

	男	女
専任	5	5
非常勤	10	2
事務	1	2
用務	1	1

生徒も当時は中学卒業後一ヶ年で終了する別科が、一クラスあっただけです。施設とか設備は殆ど皆無に等しく、眼につくものは僅か卓球台一つと、学園には不相応と思える舶来のピアノが一台に過ぎませんでした。「むらた」創刊号)

新校舎で教育環境を整備

昭和三十一年、在校生が五七〇名を超え活発さを増してくると、教育的効果と学校運営上での問題が浮上してきた。実科目時数の不足、生徒の夏期休暇中の学習意欲、七月中旬の学期末考査での暑さによる非能率的な状況、一〇月からの就職戦線など。そこでこの年から二期制を実施し、九月末日で前期を終了、一〇月初旬から後期を開始した。

この頃は、「二期制が是か非か」として教育研修会などでは論議的となっていたが、採用する学校は多かった。村田女子商業高等学校では試行的な意味で行われたが、この制度は数年を経て廃止された。

昭和三十五年五月、創立三〇周年を記念して新校舎第一期工事に着手、翌年一月には四階建て鉄筋校舎が完成した。さらに一〇月には第二期工事も

完成し、茗荷谷ホールでの落成式が挙行された。のちに(昭和四十二年)この校舎は五階部分を増築している。

新校舎が完成後、昭和三十九年三月には体育館が落成した。鉄筋三階建てで、一階には食物実習のための家庭科調理教室と被服実習のための畳敷き(五〇畳)の作法室も完備された。

この頃から生徒数が増え続け、在校生が一〇〇〇名にも達していた。生徒数に比例して部活動も活発になり、各種の大会へ参加する部が多くなっていく。例えば

昭和三十九年(バレーボール部)都代表として関東大会へ初出場／(珠算部)大学生を抑え都代表となり、全国大会第二位

昭和四十二年(ソフトボール部)インターハイ出場など、特に運動部が目覚ましい活躍をするようになってくる。

昭和五九年十一月、学園の共用施設として市川校舎が完成する。普通教室のほか、最新視聴覚設備を備えた一〇〇有余席の階段教室、大小体育館と多目的ホール、合宿も念頭に置いた畳敷作法室、茶室と一〇〇名収容可能な調理室、そして観覧場が付設されたグラウンドなどの設備が整えら



昭和42年全日本高校女子ソフトボール選手権大会

れた。

各学年が毎週一回、体育、調理実習、総合実践（商業科の実習科目）、校長講話などを中心に特別授業を実施した。この施設には教員が常駐しているため、クラブ活動、特にバレーボール、バスケットボール、テニス、ソフトボールの各部が連日使用していた。授業終了後に市川校舎（西船橋駅）まで行くのは生徒たちにとっては大変な思いであつたろうが、活動ができる喜びと、また経済面では鉄道会社が学割三角定期券（家―職場―学校を結ぶ定期券）発行の便宜を図ってくれたことなどで、挫ける生徒はいなかった。

多方面の進路を鑑みた新たな教育展開

平成四年、東京経営短期大学が開学、短大への進学者が増えていったことで、平成八年に校名を「東京経営短大村田女子高等学校」と改称した。

この頃から、都内高校女子サッカーの草分けであつたサッカー部は驚異的な活躍をし、平成二二年八月より全国大会へ五回出場、全国第三位の実力を誇っている。北京のオリンピックで活躍し、「なでしこジャパン」で活動中のOGも輩出している。

平成一一年、六〇年間慣れ親しんだ小石川から

本駒込へ移転した。この校舎移転は、都と文京区の政策によって小石川校舎所在地を公共のために不可欠の地と切望されたことによる。校舎、設備が全て新しくなり、総て新発足の感が強かつた。年を追って進学者が増加する傾向にあり、平成一三年四月、「普通科」を併設する。それまで商業・経済系への進学が中心であつたが、法・文・理・工・教育・芸術などへの進学希望者のための教育内容や指導法が充実してきたこの期に、「資格が取れる普通科」をコンセプトとして待望の新学科を設けたのであつた。

平成一八年六月一九日、前年に校長職を伊藤淑子教頭に委ねた照子が急逝し、学園に大きな衝撃を与えた。特に高校においては、開校準備から深くかわつてきていた。開校後は数学を教え、担任を持ち、学校行事の指導と、のちには副校長としての辣腕をふるつた。校長に就任してからも「常に生徒と共にあれ」「率先垂範」を実践し、慕われ続けた。

長年、後援会会長を勤めた中村良彦氏は

日本の女性の心と美意識の教育指導に心血を注がれ、多大の功績を残されました。私は先生を「第二のお母さん」と呼び、尊敬の念を抱い

平成21年度中・高教職員数

	男	女
専任	18	18
非常勤	7	5
事務	5	3
用務	1	1

平成元年度教職員数

	男	女
専任	25	16
非常勤	6	4
事務	3	2
用務	1	1

ておりました。

と話している。

照子の逝去が、特に感慨深かったその年度の卒業生は、その教えを生徒一人ひとりの心に刻もうという強い希望から、卒業に際して、ヨーロップでもトップクラスの実績を持つ油絵画家ロッシン・ライチエフ氏描く照子の肖像画を寄贈した。

また、さらに次年度の卒業生も同窓会、謙照会との共同で照子の胸像を作製し、献呈している。現在、それぞれが正面玄関で生徒たちを見守っている。

平成一九年四月、進学希望の多様化に伴い、校名を「村田女子高等学校」と改めた。東京経営短期大学との関係で、進学先を経営、経済、商学に限定されるのではないかと中学生及びその保護者が懸念するのを危惧したことも一因であった。

普通科のみならず、商業科からその専門的な知識・技能を活かして上級学校への進学者が多くなった現在、多年の懸案を解決し「中学校」の併設を決定した。中・高一貫教育としての中学校の在り方を根幹から問われることへの解答でもあった。平成二〇年四月、「村田学園小石川女子中学校」の誕生である。



村田照子像 盛岡公彦作
村田謙造像 北村西望作

卒業生累計（抜粋）

	第1回卒業生	第10回卒業生	第20回卒業生	第30回卒業生	第40回卒業生	第50回卒業生	第56回卒業生
卒業年月	昭和29年3月	昭和38年3月	昭和48年3月	昭和58年3月	平成5年3月	平成15年3月	平成21年3月
卒業生数	34名	187名	226名	284名	239名	124名	133名
合計	34名	1,643名	4,381名	6,934名	10,120名	11,937名	12,989名

（注）卒業生の合計は、第1回生～第56回生まで全人数を加算したものである。

・高校時代の思い出・

子育てしながら、母校の教えを思い出して

第42回卒業生 鈴木(旧姓小宮)和代

高校時代のことでまず思い出されるのは、「朝起きて鏡を見たらニッコニコ」という言葉です。いま保育園へ行く娘にも同じことを言っています。また、村田照子先生は体育祭であぐらをかいている生徒がいたら、保護者の前でもすぐ怒っていらっしゃいました。なかなか親の前でしかる、教えてくれる人はいないと思います。子どもができて、躰をしなくてはいけない場面になると、照子先生の話思い出します。あいさつも厳しく言われました。親の立場になってみて、どんなに大切なことを言ってくださっていたのかがわかりました。

講話の時間の最初は、校章の由来を教わり、各自自分の家の家紋を調べるように言われました。夏休みに暑中見舞いのお手紙を校長先生に出す宿題があり、9月には誤字などを直し、コメントを書いて戻してくださいました。3学年になって、進路面接を全員にしてくださり、その上自己PRを録音したカセットを聞いてくださり、一人ひとりにアドバイスを吹き込んでくださいました。北軽井沢でのお手製のたまごやきの味が、いまでも忘れられません。ほかの学校の卒業生の話と比べてみると、こんなにも校長先生とかかわる時間が多かったのはとても嬉しく、また、良い思い出です。

日商簿記2級受験の前には、簿記学校の夜間クラスで勉強させてもらいました。検定前になると早朝や放課後の講習に加え、ほかの授業が簿記に変更になり、6時限全部が簿記の授業になった日もありました。おかげで検定も合格したのだと思います。いまは自宅で子育てをしながら、会計事務所の仕事をしています。



村田照子先生授業風景

村田女子高等学校の教育課程

現在の教育課程

本校は開学以来、一貫して商業教育に力を注いできた。しかしながら近年の高校歴志向の高まりや、中学卒業時における将来設計未決定者の増加に伴い、平成一三年に普通科を新たに設置した。現在、普通科と商業科の二学科を擁し、またそれぞれの科にアドバンストとスタンダードの二コースを設けている。

【普通科】

・アドバンストコース

平成一九年度から、「特進」という位置づけで設置された。このコースは、国公立大学・私立上位大学へ、一般入試での現役合格を目指すものである。一年次から大学受験を目標としたカリキュラムを組み、問題演習中心の少人数制授業である「特講」を設け、一人ひとりをフォローしながら学力アップを図っている。

・スタンダードコース

進学を目指す普通科ではあるが、様々な資格取得を奨励しており、資格の取れる普通科を標榜している。資格は、推薦・AO入試における武器ともなっている。授業は、英語を中心に習熟度別を採用、さらに一年の一学期に簿記（科目名アカウティンク）の授業を取り入れている。これは、社会や家庭において必要な経済感覚を身につけさせるものである。二年次からは、「文系」「理系」「経済系」の選択制となっている。

なお普通科には、「長期休暇特別講習」「放課後講習」「土曜日授業」が設けられている。

【商業科】

本校創立時の教育目標である、「簿記・珠算の実務に通じた、堅実な人間を育てる」との信念を今に受け継いでいるのが、商業科である。

・アドバンストコース

会計や情報のエキスパートを目指し、各種資格



現在の授業風景

検定試験による取得可能資格一覧

〈英 語〉	
英語(全商)	1～3級
英語(実用)	準1～3級
TOEIC	
〈国 語〉	
漢字	2～3級
〈簿 記〉	
簿記(全商)※	1～3級
簿記(日商)	2～3級
簿記(全経)	1～3級
〈パソコン〉	
情報処理(全商)	1～3級
ワープロ(全商)	1～3級
ワープロ(日検)	1～3級
表計算(日検)	1～3級
ホームページ(日検)	1～3級
文章デザイン(日検)	1～3級
〈珠算・電卓〉	
珠算電卓(全商)	1～3級
珠算(日商)	1～3級
珠算(全珠連)	1～3級
電卓(日本電卓)	段位～3級
〈その他〉	
商業経済(全商)	1～3級
秘書	1～3級
ペン字	1～3級
毛筆	1～3級

※3年生は、3級以上の資格を商業科で平均7種目、普通科で平均4種目取得している。

平成21年3月卒業生のうち全国商業高等学校協会主催の検定試験を受験し

- ・ 5種目(珠算、簿記、ワープロ、電卓、商業経済)すべて1級合格者… 1名
- ・ 4種目すべて1級合格者…… 1名
- ・ 3種目すべて1級合格者…… 1名

を取得して社会における即戦力となる者を養成する。特に簿記、情報処理検定においては1級合格を目標とし、毎年合格者を多数輩出している。これらの資格は、大学の推薦入試やAO入試においても有力な武器となっている。

・スタンダードコース

様々な検定試験をカリキュラムにリンクさせており、多くの資格取得が可能である。二年生からは、「会計系」「情報系」「総合系」に分かれて学

んでいくが、進学・就職いずれにも対応できる体制をとっている。

商業科には、「土曜ゼミ」「放課後講習」「必修資格」が設けられているほか、カリキュラムに厚生労働省の「YES-プログラム」(就職応援プログラム)を導入している。これは指定された講座を受講し、指定された資格を取得することにより、就職に有利な修得証明書が国から発行されるものである。

●普通科の教育課程

普通科 Advanced course (特進)		1年	2年		3年	
			文	理	文	理
国語	国語総合	4				
	現代文		2	2	2	2
	古典		2	2	2	
	国語特講Ⅰ	2				
	国語特講Ⅱ		3			
	入試現代文特講				3	
地歴	入試古典特講				2	
	世界史B	4				
	日本史B		3	3	2	
	日本史特講		2			
	入試日本史特講				*2	
公民	入試世界史特講				*2	
	倫理				2	2
	政治・経済				2	2
数学	数学Ⅰ	3				
	数学Ⅱ		4	4		
	数学Ⅲ					3
	数学A	2				
	数学B		2	2		
	数学C					2
	入試数学特講					2
理科	理科総合A	3				
	物理Ⅰ			*5		
	物理Ⅱ					*3
	化学Ⅰ			3		
	化学Ⅱ					3
	生物Ⅰ		3	*5		
	生物Ⅱ					*3
	理科特講	2				
保健	入試生物特講				*2	
	体育	3	2	2	2	2
芸術	保健	1			1	1
	音楽Ⅰ	1			1	1
英語	英語Ⅰ	4				
	英語Ⅱ		5	5		
	リーディング				4	4
	ライティング		2	2	2	2
	英文法特講Ⅰ	2				
	英文法特講Ⅱ		2	2		
	入試英語特講A				3	
	入試英語特講B					1
	家庭総合	2			2	2
	情報A				2	2
	必修	33	32	27	32	31
	選択			5	2	3
総合的		1	1	1	1	1
L.H.R		1	1	1	1	1
計		35	34	34	36	36

*…選択科目

普通科 Standard course		1年	2年			3年		
			文	理	経済	文	理	経済
国語	国語総合	4						
	現代文		2	2	2	2	2	4
	古典		2	2	2	2		2
	国語演習Ⅰ	*1						
	国語演習Ⅱ		3					
	国語演習Ⅲ					2		
地歴	文章表現演習					2		
	世界史B	4						
	日本史B		3	3	3			
	日本史演習Ⅰ		2					
	日本史演習Ⅱ					3		
公民	倫理					2	2	2
	政治・経済					2	2	2
数学	数学Ⅰ	3						
	数学Ⅱ		4	4	4			
	数学Ⅲ						3	
	数学A	2						
	数学B		2	2				
	数学C						2	
	数学演習						2	
理科	理科総合A	3						
	物理Ⅰ			*5				
	物理Ⅱ						*3	
	化学Ⅰ			3				
	化学Ⅱ						3	
	生物Ⅰ		3	*5	3			
	生物Ⅱ						*3	
保体	体育	3	2	2	2	2	2	2
	保健	1				1	1	1
芸術	音楽Ⅰ	1				1	1	1
	英語Ⅰ	4						
英語	英語Ⅱ		5	5	7			
	リーディング					4	4	4
	ライティング		2	2	2	2	2	2
	英語演習Ⅰ	2						
	英語演習Ⅱ		2	2				
	英語演習ⅢA					3		3
	英語演習ⅢB						1	
	英検演習	*1						
	家庭総合	2				2	2	2
	情報A					2	2	2
商業	アカウンティングⅠ	1						
	アカウンティングⅡ	*2						
	アカウンティングⅢ				*7			
	アカウンティングⅣ							*5
	マルチメディアⅠ				*7			
	マルチメディアⅡ							*5
	必修	30	32	27	25	32	31	27
	選択	2		5	7		3	5
総合的		1	1	1	1	1	1	1
L.H.R		1	1	1	1	1	1	1
計		34	34	34	34	34	36	34

第三章 村田女子高等学校・村田学園小石川女子中学校のあゆみ

●商業科の教育課程

商業科		1 年		2 年				3 年			
		Standard	Advanced	Standard			Advanced	Standard			Advanced
				会計	情報	総合		会計	情報	総合	
国語	国語総合	3	3	3	3	3	3				
	現代文							3	3	3	3
	文章表現演習										*2
地歴	世界史 A	2	2								
	日本史 A			2	2	2	2				
公民	倫理							2	2	2	2
	政治経済							2	2	2	2
数学	数学Ⅰ	3	3								
	数学Ⅱ						2				2
	数学 A			2	2	2	2				
	数学 B										*2
理科	理科総合 A			2	2	2	2				
	理科総合 B	2	2								
保体	体育	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2
	保健	1	1					1	1	1	1
芸術	音楽Ⅰ	1	1					1	1	1	1
	書道Ⅰ			1	1	1		1	1	1	
	書道演習										1
英語	英語Ⅰ	4	4								
	英語Ⅱ			3	3	3	3	3	3	3	3
	リーディング										4
	ライティング						2				
	家庭総合			2	2	2	2	2	2	2	2
普通科目必修		19	19	17	17	17	20	17	17	17	23

商業	商品と流通	2	2								
	マーケティング									*2	*2
	経済活動と法							2	2	2	2
	簿記	5	6			4					
	会計			4			*4	6			
	原価計算			3			*2				
	情報処理	2	2		4		*6				
	文書デザイン			2	2	2	2	2	2	2	
	ビジネス計算	2	1	2	2	2					
	ビジネスコンピューティング				3	3			6		
	オフィスコミュニケーション							2	2	2	2
	コンピュータ演習									4	
	ビジネスマナー									*2	
	簿記演習									*2	
	会計演習										*2
商業科目必修		11	11	11	11	11	2	12	12	10	4

必修	30	30	28	28	28	22	29	29	27	27
選択						6			2	2

YES-プログラム			1	1	1	1				
総合的な学習	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
L.H.R.	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	32	32	31	31	31	31	31	31	31	31

*…選択科目

村田女子高等学校の年間行事

高等学校の年間行事

- 四月 フィールドワーク（校外授業）
- 五月 女子小・中学生珠算選手権大会
- 体育祭
- 六月 同窓会
- 七・八月 北軽井沢教室
- クラブ合宿
- 八月 海外語学研修旅行
- 九・一〇月 むらた祭
- 十一月 合唱コンクール
- 十二月 スキー教室
- テーブルマナーの会（三年生）
- 三月 三年生を送る会
- 修学旅行（二年生）

女子小・中学生珠算選手権大会

終戦以後、中絶の状態であった「ソロバン競技大会」が復活したのは、昭和二十九年一月二十九日であった。この大会を村田女子商業高等学校主催

の第一回大会と位置付け、新装成った講堂で開催された。「第一回都下中学校ソロバン競技大会」という名称であった。

第一回は三七校一九〇名が集まり、各種の競技が開かれた。この時の団体総合競技の一等（優勝）は、荏原第三中学校（品川区）であった。

この大会の目的は、「計算技術の練磨と向上、女子計理教育の充実を図る」などとし、以降は学校行事の一つとして続けられている。

平成八年から小学生の部をつくり、また、学校単位ではなく塾単位での参加が多くなったため、タイトルを表題のように変更している。

平成二二年度（第五三回）は、五月一〇日に開催された。

・参加者 中学生の部 九一名

 小学生の部 一八四名

・団体優勝

中学生の部 宮本珠算研究塾（中野区）

小学生の部 滝山珠算塾（東久留米市）



市川校舎での体育祭

・後援

全国商業高等学校協会

日本商工会議所

東京商工会議所

日本珠算連盟

全国珠算教育連盟

東京珠算教育連盟

体育祭（運動会）

開校以来初の運動会は、昭和三〇年一〇月二三日、校庭で開催された。初めての運動会から現在まで、商業系の学校らしい「暗算競技（読上暗算競技）」が受け継がれている。第二回以降は、生徒の増加に伴い外部の施設を借用している。第二回は豊島園大運動場であった。

運動会が「体育祭」と名称を変更したのは、昭和四一年に「体育の日」が制定された以後と思われる。また、当時の学習指導要領に記された「学校行事の健康安全・体育的行事、クラブ活動などにおける体育的諸活動を積極的に行うこと」も要因となった。

暗算競技と並んで村田の特色である独特の「むらた体操」は、昭和三四年四月に着任した体育科教諭松井正二氏が導入したものである。

また、「ああ紺碧の 空高く」とうたわれる応援歌については、第一回運動会で歌われたかは不明であるが、昭和三二年三月にはすでに発表されていた。

昭和四〇年代になって秋から春に日程を変え、また、外部施設として次の会場が主に利用されている。

昭和三〇年代 豊島園大運動場

昭和四〇年代 東京体育館・六義園グラウンド

昭和五〇年代 東京体育館・市川校舎グラウンド

平成三年以降 東京体育館

平成九年以降 東京武道館

村田女子高等学校応援歌

藤間 哲夫 作詞

山口 俊郎 作曲

ああ紺碧の 空高く

日輪踊る 歓喜の朝

聞けや我等が 熱と意気

若き力は 燃えて挙げり

村田 村田 村田

フレ フレ フレ 村田



東京武道館での体育祭



ああ伝統の 学び舎に

勝利あまねく 耀く歴史

見よや精鋭 行くところ

常に頼もし 常に新し

村田 村田 村田

フレ フレ フレ 村田

ああ有終の 栄えの門

今こそ唱う 燦たる凱歌

知るや母校の 名はまたも

明日の希望の 雲を彩る

村田 村田 村田

フレ フレ フレ 村田

同窓会

昭和二十九年六月一三日、第一回同窓会総会が開かれた。同窓会員三四名からの発足であった。第一回の総会では、予算案、会員名簿補綴などの議事のほか、会長、副会長、監事各一名、会計二名、理事三名が選出された。初代会長には飯田幸子さんが選ばれた。

第二回総会は、昭和三十〇年五月二二日であった。発足一年後のこの総会で早くも会則改正が承

認され、会長一名、副会長二名、監事二名、庶務会計二名、理事一〇名を選出し、大きく飛躍を遂げた。このとき第二代会長に、杉田節子さんが選ばれている。

現在は、毎年六月第一日曜日を総会日と決めている。今年度は、第三回生から第五回生までと前年度の卒業生を合わせ一五〇名程で開催された。

平成一八年六月四日の同窓会（総会）は、出席者にとつては特に印象が強く残る会となった。

照子は傘寿を迎え、その祝いの意味もあつてこの日壇上で盛大な拍手のなか花束を贈られた。そのときの挨拶は

学父、村田謙造先生が米寿まで現役だったのだから、私もあと八年は頑張ります

というものであった。しかし、この二週間後に鬼籍に入ってしまった。

北軽井沢教室

「北軽井沢キャンプ」として、開校以来実施されている夏期休暇中の行事の一つである。当初は民宿的な宿舎であったが、昭和三十三年頃より「高原の集い」と名称変更し、酪農家の離れ家を借

平成21年度同窓会役員

会 長	長谷川恵子 (3回生)
副 会 長	山田 庄子 (22回生)
	原田 孝子 (31回生)
庶務会計	平柳 誠子 (17回生)
	脇野 京子 (27回生)
監 事	小山 幸江 (22回生)
	安原 里枝 (31回生)

～ラジオで流された体育祭・健歩会の開催～

野外のグラウンドを利用する際に最も困ることは、その日の天候である。当日の朝、決行か延期かの判断をするが、それを生徒たちに伝達する方法がなかった。そこで、早朝の放送を利用し、ニッポン放送の協力で10秒スポットで流すことにした。しかし、CM枠ではないため「皆さまお待ちかねの……」と一般人に呼びかける文言として放送された。

用、定期的に使用していた。昭和三〇年代の一〇年間は希望者が非常に多く、二班・四班に分けて参加させていた。

日程・行程は現在の「北軽井沢教室」とほとんど変化はなく、三泊四日が原則である。

当時の様子を第三回卒業生（昭和三十一年三月卒）、長谷川恵子さんは

五〇余年前の北軽井沢キャンプで、私達は照子先生から三角おむすびの握り方や薪でお風呂の沸かし方などを教えて頂きました。我が娘のように愛情を込めた教育をなさり、凛とした姿勢に私達も背筋が伸びる思いでした。

と述べている。現在でも寮の生活は、清掃や食事の調理・準備など、すべて生徒中心で行われている。

昭和四〇年七月、山小屋風の高原寮が完成すると、その後は一年生がクラス毎に三泊四日の合宿生活を送ることになる。

（北軽井沢教室の生活目標）

一、自分のことは後回し、まずみんなのことを考えましょう。

二、体を動かして、なんでも自分から進んでや

りましょう。

三、がまん強くなるように努力しましょう。

四、自然に親しみ、ハイキングなどを通じて自分の体力を試みましょう。

五、常に安全第一と考えて、寮内のきまりを守りましょう。

（スケジュール）

第一日目 浅間大滝への散策

（平成一四年までは照月湖散策）

夜 ミーティング

第二日目 鬼押し出しへハイキング等

夜 スタンツ

第三日目 白糸の滝、浅間牧場へハイキング

夜 キャンドルサービス

昭和三〇年・四〇年代に実施された夏期休暇中の行事は、ほかに「海の学校」（のち海の教室と名称変更、千葉県岩井海岸、静岡県弓ヶ浜海岸等で開く、常に四〇名以上参加）「富士登山」（のち山旅、ワンダーフォーゲルと名称変更し、多くの山を楽しんだ）。

北軽井沢高原寮は、北軽井沢教室の終了後はクラブ活動の場として利用された。

～停電の中で過ごした北軽井沢教室～

北軽井沢周辺は、ライフラインのうち特に電気が弱かった。雷が落ちてよく停電し、復旧には時間がかかった。ある夏、台風により停電し、三泊全てローソクで過ごしたクラスがあった。生徒たちは落胆したが、よい経験をしたという感想が多く教員たちはほっとした。



現在の北軽井沢教室

修学旅行

東京を發つて数時間、車中は相変らず騒がしかった。窓越しに見る夕景色も次第に暗色を増す。長い間の夢が、高校時代最後の旅がついに始まった。そしてこの旅が最後までスムーズに実行されることを願う。

日本三大港の一つである神戸を経て、姫路が間近に迫ると昨夜の疲れにいつの間にか寝入っていた。白鷺城が見えるという声に目をさました時はもうすでに遅く、私の目には城らしいものは映らなかった。朝食をすませ岡山に近付く頃は十余時間の汽車の旅に純白のブラウスがいつの間にか黒く汚れていた。

〈第三回卒業生（昭和三十一年三月卒）、前島玲子さんの手記〉

修学旅行は、第一回生から実施されているが、交通手段や教員・生徒などの希望により、時に応じて目的地、実施時期が微妙に変化してきている。当初は三年生の夏（七月中旬）に行われていたが、昭和三二年度から、二年生の学年末（三月中旬）に変更され現在に至っている。交通手段も夜行急行列車、ブルートレイン、飛行機と変化、

それにより日程も短くなった。

〈コースの主な変遷〉

○関西（京都・奈良）

○関西—四国（屋島・琴平）

○四国—北九州（別府・阿蘇）—関西

○北九州（阿蘇・熊本・天草・島原・長崎・平戸）—関西

○中国（秋吉台・萩）—北九州

昭和三〇年からは、八日間（車中二泊）の旅であつたが、現在は飛行機の利用で四泊五日の行程となった。

（注）東海道本線（東京—神戸間）が完全電化されたのは、昭和三二年一月一九日、山陽本線（神戸—門司間）は、昭和三九年五月二二日

海外語学研修旅行

第一回は、アメリカ・ワシントン州にある州立ワシントン大学内の語学研修プログラムへの参加であつた。村田簿記学校では、すでに同プログラムを導入していたが、高校では平成四年の夏からである。一六日間の日程で、うち二泊のホームステイとカナダへの一泊旅行が含まれている。

第一回の参加者は、生徒二名と教員四名で、



修学旅行

生徒一名あたりの費用は、四六万円であった。

平成一四年度より、研修場所をオーストラリア・ケアンズに移し、一三日間の日程で実施されている。これまでの研修と異なる点は、シドニーへの一泊旅行以外は、全てホストファミリーの家庭から学校（ケアンズランゲージセンター）へ通学することで、現地の生活文化を体験させる試みである。平成二二年度の生徒一名あたりの費用は三八万八〇〇〇円となっている。

平成二二年度の研修プログラムは次のとおり。

2日目

ケアンズ到着、トロピカル動物園見学、午後ホストファミリーと対面、ホームステイ

3日目

ランゲージセンターにてオリエンテーション（授業の進め方やオーストラリアの生活について学ぶ）、学校見学、市内見学、ホームステイ

4日目／5日目

英語研修、午後現地小学校訪問

6日目

終日キュランダ見学、ホームステイ

7日目

終日英語研修、ホームステイ
8日目

終日グリーン島見学、ホームステイ

9日目

ホストファミリーとのフリータイム、ホームステイ

10日目

午前英語研修、午後現地学校にて授業体験、フェアウェルパーティー、ホームステイ

11日目

シドニー市内見学、ホテル泊

むらた祭（文化祭）

春の体育祭と並び、生徒たちが最も楽しむ行事である。昭和三九年に初めて開催された。

それまでは、秋は運動会が開かれ、文化祭的な意味を持つ行事は三月の予餞会（卒業前の送別会）で行われていた。生徒たちが一堂に会し、ダンス部のダンス、英語部の英語劇、演劇部の演劇、さらに各学年有志による日本舞踊、合唱、ダンス、洋舞、卒業生による演劇などで楽しんでいた。

運動部においては各種の試合に出場し、その結



むらた祭アーチ



海外語学研修旅行

果で活動状況を把握できるが、文化部には日頃の成果が活かされる場が与えられていない。そこで秋の二日間を「むらた祭」として毎年テーマを決め、それに沿った発表の場を各部に提供しようとしたものである。

現在では、演劇、吹奏楽、軽音楽、ダンス部をはじめとする各部が舞台発表をし、華道、書道、美術、家庭、写真など多くの文化部が展示発表を行っている。第三回位から調理室を利用しての麺類の提供が始まり、いまでは種類も豊富になって屋台形式となっている。

平成二一年度は、一〇月三日、四日に開催された。テーマは

「和と洋の調和——新しい文化の創造——」で、入場者は二日間で一七〇二名の盛況であった。

合唱コンクール

昭和五九年一月、市川校舎が竣工した。新築した校舎を全校生で祝賀するため、体育館の舞台の柿落としを兼ねて編みだされた行事が「校内合唱コンクール」であった。

その後は毎年小石川校舎で開かれ、平成七年度の第一一回からは日本青年館大ホールで開催され

ている。今年で第二五回を迎える。内容は、課題曲と自由曲の二曲を全クラスが発表し、金、銀、銅の各賞と学年優勝を決定する。指揮とピアノ伴奏も生徒が行い、審査は教員があたっている。

年を追うごとに高度化されていく様子を、音楽科、佐川敦子教諭は、第一九回の講評の折自由曲は難解な音構成に挑戦するクラスが多く、指揮・伴奏者を中心に丹念な音作りを重ね、見事な合唱になっている。

二一世紀になっても音楽情報は昔と変わらず、楽譜上に存在している。それを表現するためには、人間の優れた技と心が不可欠である。（「ひさかた」第九九号）と述べている。

スキー教室

スキー教室は、昭和三五年の冬から開催されていた。スキーは同五〇年代をピークとして高校生にとっては人気のあるスポーツであった。スキーの技術を身につけることは、一般にステータス的な意味もあり、そのため高校在学中に技術を習得し、社会人になってからは「楽しむ」という傾向にあった。この行事には、翌年も参加する生徒が



合唱コンクール



むらた祭

多く、平成期初頭までは参加人数は常に五〇名を超えていた。

例えば、

平成四年度 北志賀小丸山スキー場

参加生徒数六九名、引率者二二名

一二月二日から四泊五日

平成五年度 北志賀小丸山スキー場

参加生徒数七四名、引率者一三名

一二月二日から四泊五日

であった。

しかし、その後スノーボードへの関心が高まるにつれ、参加者も減少し、平成一二年度は二〇名の参加にとどまった。その後は実施されていない。

生徒会活動

昭和二八年四月、校舎の増築工事が完成した。二階建ての明るい建物であった。ここで初めて一年生から三年生まで揃うことになる。バレーコートが作られコンクリートの門や塀ができて学校らしくなってくると、生徒会に属するクラブ活動が活発になった。第一回生が入学後生徒会は直ちにつくられた。

昭和三〇年に入り生徒数は五〇〇名近くに増加した。第三回生徒総会では生徒の「自治」を大きな目標として掲げ本格的な活動に入ったが、二期以降は役員の大半が三年生のため就職活動に専念し、計画どおりには進まなかった。しかし、昭和三一年度からは役員の立候補制を設け、生徒会活動、クラブ活動ともに活発になっていった。昭和三〇年度のクラブは下表のとおり。

健歩会

現在の学校行事に組み込まれてはいないが、昭和四六年から年一回の「健歩会」が計画され、雨天中止の年を除き七回実施された。

都会で生活している生徒たちに郊外に出て新鮮な空気を吸い、秋空のもとでのびのびと運動させたい、という意図で生まれたものである。

場所は、埼玉県・狭山湖畔一周の一一・五キロのマラソンコースであった。原則として「歩く」ことが目的ではあったが、上位二〇位までを表彰するとすると自信のある生徒は走り通した。

第一回 昭和四六年一〇月二一日

第七回 昭和五四年 九月一四日

後援会

昭和29年6月発足 初代会長 中井初次郎氏

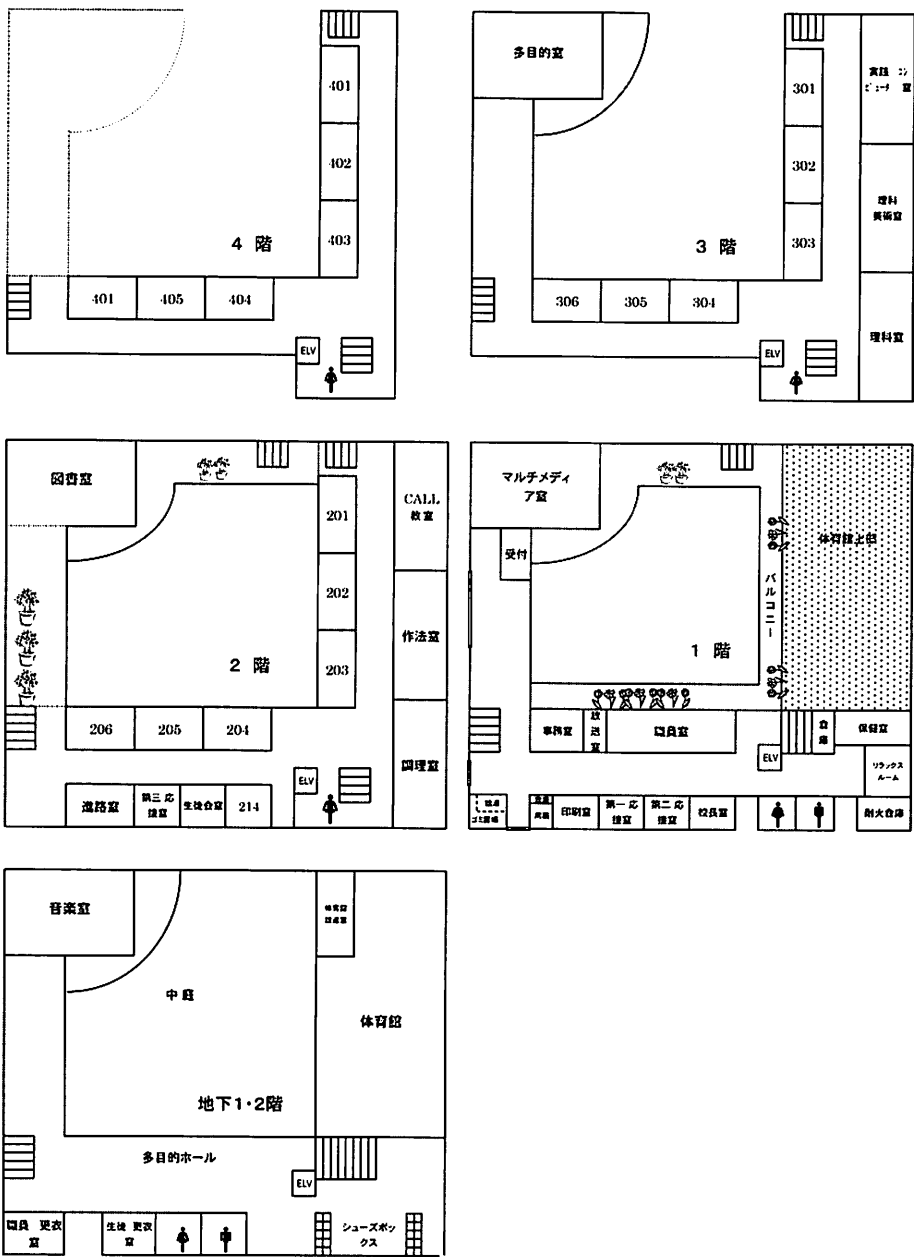
平成21年度中・高後援会役員

会長	橋本 和行	書記	坂原 幸子
副会長	柳瀬 幸子	書記	深野 洋子
副会長	宮越 千奈	監事	串田 エダ
副会長	赤羽 公司	名譽顧問	中村 良彦
副会長	本田 みゆき	顧問	坂巻 章雄
会計	堀井 弥生		

昭和30年度のクラブ

文化部	文芸部〔新聞班、図書班〕	英語部	珠算部
	音楽部	簿記会計部	書道部 華道部
	タイプ部	演劇部	
体育部	卓球部	排球部	バスケット部
	ソフトボール部	ダンス部	

教室配置



村田女子高等学校・村田学園小石川女子中学校の施設設備

施設状況

校 地		3,147.660㎡
校 舍	建坪	1,875.548㎡
	延建坪	7,367.325㎡

室名	数	室名	数
校長室	1	保健室	1
普通教室	18	体育館	1
音楽室	1	コンピュータ・ 総合実践室	1
理科室	1	CALL教室	1
理科・美術室	1	多目的室	1
マルチメディア室	1	作法室	1
調理室	1	職員室	1
カウンセリング室	1	事務室	2
進路指導室	1	用務員室	1
生徒会室	1	応接室	3
更衣室	3	多目的ホール	1
図書室	1	小教室	1
印刷室	1		

・北軽井沢寮

所在地 群馬県吾妻郡長野原町北軽井沢

校 地	12,290.00㎡
建築面積	442.58㎡

室名	数	室名	数
生徒用寢室	1	調理室	1
生徒用居室	1	ホール	1
職員室	2	倉庫	1
その他運動場、同窓会館、テニスコート			



作法室



多目的ホール



CALL教室



図書室

村田女子高等学校のクラブ活動

【文化部】

■茶道部

活動目標は、茶道を通じて日本の心を感じるこ
とである。練習には外部から先生をお招きし、「裏
千家」のお点前習得に励んでいる。文化祭では毎
年茶席を出し、日頃の練習の成果を発表している。

■華道部

小原流華道師範から指導を受け、卒業までに「師
範科Ⅱ期」まで修了し、許状も取得できる。「小
原流学生いけばな競技会」においては、これまで
に三回の優勝を誇っている。

■書道部

毎年、楷書、行書、草書、隸書、篆書の五体千
字文に挑戦し、腕を磨いている。最近は、二書体
二千字を書き上げる部員もできた。かつては全
国書道展において、文部科学大臣賞を受賞したこ
ともある。部員は全員、全国書初席書大会に参加

している。

■簿記部

日頃の活動は、日商や全商の簿記検定の資格取
得に向けての勉強である。その日々の成果を発揮
する場として、簿記コンクールや簿記選手権大会
に出場している。全商簿記コンクール全国大会に
おいては、これまで二一回の出場を誇っている。

■珠算・電卓部

学校創立と同時に誕生した、伝統と実績のある
クラブである。平成二一年度の東京都高等学校珠
算競技大会では、団体優勝と個人種目優勝を果た
し、全国大会への出場枠七名のうち本校生が四名
を占めた。現在、全国大会に五三年連続出場とい
う輝かしい記録を更新中である。

■社会福祉部

毎月一回、「子どもと一緒に遊ぼう」という活
動に参加している。子ども達に楽しんでもらうた



書道部



華道部

めにはどうしたらよいか、日々勉強している。このほかに、地域の高齢者在宅サービスセンターでのボランティア活動も行っている。

■軽音楽部

初心者から経験者まで、また全学年が一緒になってライブを創り上げている。一生懸命「心」を込めることをモットーに、音楽を楽しんでいる。文化祭、クリスマスライブなどが、主な発表の場である。

■家庭科部

週二日の活動日は、一日は文化祭に向けての個人作品の制作を、もう一日はお菓子作りを中心に行っている。毎年文化祭で販売するパウンドケーキは、部員の自信作である。

■英語部

英語をとおして国際感覚を養い、新しい自分を発見することを目標とするクラブである。英語劇やスピーチの練習が主な活動である。東京都商業教育研究協議会 英語部会主催の全商杯商業高等学校英語スピーチコンテスト東京大会では、

Speech の部・Recitation の部いずれでも入賞の実績を持つ。

■演劇部

生活の中にあるドラマを舞台の上で表現することが、活動目標である。年三回の舞台発表を目指して、普段は身体訓練や発声などの基礎訓練を行っている。これまでに、東京都大会への出場実績がある。

■美術部

初心者から経験者まで、個性豊かなメンバーが集まって活動している。油絵や水彩画、工作と、それぞれの好みの分野で、オリジナル作品の創作活動を行っている。

■写真部

月例展の開催や文化祭での展示を、主な発表の場としている。時には学校近くに出かけ、季節の移り変わりをレンズで切り撮ったりもしている。また、私学生徒写真展へも出品している。

■イラストレーション部

演劇部



軽音楽部



イラストやアニメ好きな仲間が集まって、文化祭での作品発表に向けて活動している。文化祭では、イラストボードの展示や、部誌を作成して発表している。

■読書部

定期的に様々な本の「書籍紹介」を書き、ホームページで紹介している。また図書委員会と合同で、文学散歩も行っている。文化祭では毎年一人の作家にスポットをあて、展示発表を行っている。

■パソコン・ワープロ部

普段の活動は、表計算とワープロ検定の一級合格を目指しての練習である。毎年六月に開催される全東京高等学校ワープロ競技大会に出場。これまでに、全国大会六回出場の実績がある。

■コーラス部

「ハーモニーを楽しもう」を合言葉に、歌うことが好きなメンバーの集まりである。基本練習曲でハーモニーの練習を重ね、文化祭での発表を目標としている。このほか月一回、高齢者施設において、お年寄りの皆さんと一緒に歌うボランティア

ア活動も行っている。

■吹奏楽部

楽器を奏でる楽しさと合奏する感動を共有するため、作曲者の意図する音楽を懸命に研究し、曲創りに励んでいる。八月のコンクールが最大のチャレンジの場であるが、学校行事である入学式・体育祭・卒業式、そして文化祭での演奏も大切な発表の場である。

【運動部】

■剣道部

創部以来四〇有年の歴史を誇り、これまでに東京都代表としてインターハイ出場選手を輩出するなど、都で上位に位置したこともあった。現在は初心者が多く、基本練習を中心に、全員が有段者を目指して活動している。

■サッカー部

全国大会四回出場。最高三位。卒業生の中からは、アテネと北京オリンピックのなでしこジャパンのメンバーを輩出。現在強豪チームに数えられ



サッカー部



吹奏楽部

しており、全国制覇を目指して日々練習に励んでいる。二一年度も、全国大会出場を果たした。

■ダンス部

目指しているのは、創作ダンス。曲や振り付けを自分たちで研究し、発表会では照明からダンスの構成まで、全てを部員が行っている。

■テニス部

各種大会での勝利を目指し、めりはりのある、明るく礼儀正しい部活を目標に活動している。平日は近隣の小学校のコートで、休日には東京経営短期大学のコートで練習を行っている。

■バスケットボール部

平成一八年度の新人大会で、三部昇格（ベスト八八）を果たした。次の目標はベスト三二、そしてベスト一六入りである。まずは関東大会出場を目指し、「練習は試合のように、試合は練習のよう」を合言葉に、練習に励んでいる。

■ワンダーフォーゲル部

アウトドアスポーツを楽しむクラブで、山登り

やクロスカントリースキーなどを行っている。主な遠征としては、五月春山登山、八月アルプス合宿、一十月秋山登山、一月クロスカントリースキー、そして三月の芋煮会である。

■バドミントン部

試合に勝つことを目標に、日々基礎打ち、ノック、その他実践的な練習を行っている。見かけによらずハードなスポーツであるが、楽しく向上心を持って勝利に向かって頑張っている。

■バレーボール部

かつては関東大会一〇回出場、私学大会で優勝という輝かしい伝統のあるクラブである。現在は地道に一勝を目指し、かつての強豪時代に少しでも近づけるよう、日々練習に励んでいる。

■卓球部

いろいろな大会に積極的に参加し、勝利を目指して頑張っている。最近の成績は、Ｃクラスながら春季大会兼関東大会予選会においてベスト三二に入った。今後は、さらに上位を目指して活発に活動していく。



バレーボール部



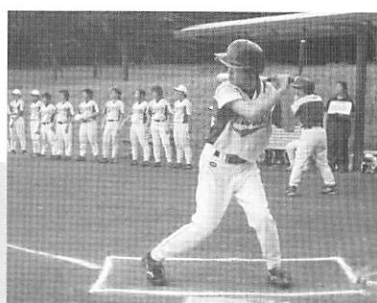
バドミントン部

■ 軟式野球部

部員の多くは高校入学から始めた未経験者であるが、とにかく野球の好きな者が集まっている。これまで全国大会に七回出場、二二年度も優勝し、昨年まで五年連続優勝を果たしている。



バスケットボール部



軟式野球部



ワンダーフォーゲル部



珠算・電卓部



剣道部

村田女子高等学校の進路指導

進路指導の指針は、キャリアデザインである。

人生設計を立てさせることから始め、その夢を實現させるための学力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につけさせるために、次のようなテーマを設定している。

一年次 将来に向けての夢探し、自己発見

二年次 職業研究

三年次 大学研究

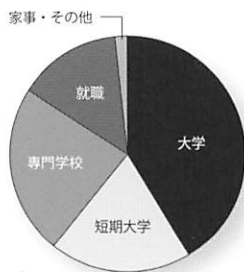
これらのテーマを完遂させるために、様々なガイダンスを行っている。

また、一年次から全員に「進路ノート」を持たせ、ガイダンスの感想や適性検査・学力テストの結果などを記録させている。さらに担任への質問なども書きこませ、それに対して担任が答える交換日記のような使い方も行っている。こうした日々のきめの細かい指導の積み重ねをとおして、生徒一人ひとりの夢の実現を支援している。

本校では、「Yes, I can」と言える何かを身につけさせることを念頭に置いて、進路指導に携わっている。

平成20年度進路状況

	卒業生数	割合(%)
大 学	55	41.5
短期大学	26	19.5
専門学校	31	23.3
就 職	19	14.2
家事・その他	2	1.5
合計	133	100.0



進路ガイダンス

- ◆キャリアガイダンス
- ◆キャリアカウンセリング
- ◆学力テスト&カウンセリング
- ◆資格取得
- ◆大学模擬授業
- ◆職業研究レポート
- ◆小論文対策・模試
- ◆YES-プログラム(商業科)
- ◆コミュニケーション能力養成(グループ学習)

1・2年生

3年生

- 4月 志望校調査・エゴグラム診断・適性検査
- 5月 担任・進路指導部面談・小論文講習開始・入試ゼミ開始(予備校講師)
- 6月 実力判定テスト・キャリアガイダンス(進路別による個別相談)
- 7月 進研模試・キャリアガイダンス(卒業生の受験体験)・夏期講習・小論文模試
- 8月 夏期講習・面接講習会・三者面談
- 9月 センター試験ガイダンス・小論文個別指導開始
- 10月 東京経営短期大学特別推薦・専門学校推薦入試
- 11月 大学・短大推薦入試・進研模試・河合模試
- 12月 冬期講習
- 1月 センター試験直前講習・大学入試センター試験
- 2月 一般入試



進路相談

村田学園小石川女子中学校

ゆとりあるキャリアデザイン教育のために

村田学園は明治四二年の創立以来、「時代が求める人材、社会に貢献できる人間の育成」を根幹精神として、教育界に大きな足跡を残してきた。なかでも村田女子高等学校は、この学園の精神を「キャリアデザイン教育」というコンセプトに集約し、数多くの卒業生を輩出してきた。しかしながら近年の若者の進路決定に至る過程は、時代とともに変化が生じてきている。このような背景をもとに、ゆとりを持って「キャリアデザイン教育」を行っていくために中高六年間一貫教育の必要性を感じ、平成一八年に中学校設立準備委員会を立ち上げた。開校までの流れは、次のとおりである。

平成一九年	四月 一日	中学校設置認可申請
平成一九年	五月二二日	設置認可の設置計画承認が受理
平成一九年	九月一八日	設置認可を適当と認める東京都私立学校審議会の答申

平成一九年一月一二日 学校設置認可
平成二〇年 四月 一日 開校

細やかなカリキュラムによる六年間一貫教育

村田学園小石川女子中学校は、キャリアデザイン教育による早めの特性発見と、その中で「科学する心」の有効性を知り、論理的思考力を身につけた「サイエンスレディ」の育成を教育の目標とした。

六年間一貫教育のカリキュラムは、大きく三クールに分かれている。

【中一・中二】

目標達成とフォローアップ授業の期間と位置づけ、ゆるぎない基礎学力を身につけさせる。

【中三・高一】

中三から高校分野の学習に入り、高一の終わりに「理系」「文系」の選択を行う。

【高二・高三】

演習授業や放課後の実験講習を中心に、大学入試に向けた実力を養う。高三の一学期までに高校



第1回入学式

の履修範囲を終え、以後は入試に向けた実力養成期間とする。

また、この学習カリキュラムは、細やかに到達度を確認しながら前に進む「フォローアップ五期制」を導入している。これは、通常授業＋定期試験＋フォローアップ授業を一期とし、一年間を五期に分けたものである。《カリキュラム一覧 一二九頁参照》

「サイエンスレディ」を育む多彩なプログラム

サイエンスレディの基本は、教科書の学びだけにとどまらない。次のような特色ある教育プログラムを用意している。

「総合学習」

実体験やグループ学習から、感性や考え方（論理力）を養う。各期ごとに様々な分野の特別授業を用意し、実験や施設見学などを通して学問への興味を引き出すものである。また、グループ学習を主体とし、大学や社会で役立つリサーチ能力やプレゼンテーション能力を高めることも目的としている。

「宿泊体験学習」

一年入学後すぐに行われるのが、オリエンテー

ション合宿（箱根）である。八月は北軽井沢高原教室、二年になると夏のグループワーク合宿（栃木県ツインリンクもてぎ）、冬にはクリスマス・アクティビティ（福島県ブリティッシュヒルズ）が組まれている。三年では京都・奈良への修学旅行、最後はオーストラリア・ケアンズでの海外研修で、ホームステイ体験も行う。

この一連の学習は、宿泊と共同作業を通じて感性を磨き、人間関係能力と友情を育むことを目標としている。

「和のこころプログラム」

お茶、お花、ゆかた作りに取り組み、日本の伝統文化をとおして心静かに、女性としての感性を養うものである。

「キャリアデザイン教育」

テーマ学習をおして自己理解、他者理解、職業理解と展開し、将来の生き方を考える姿勢を養う。これは、しっかりとしたキャリアデザインを持たせることによって、今の学習の大きな動機づけとするものでもある。

「コミュニケーションプログラム」

これは認め合う友人関係を築き、安心できる生活環境を作ることを目的とした、心のプログラム

●平成21年度生徒数

生徒数	1年生	15
	2年生	15



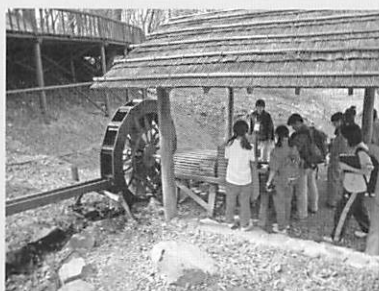
授業風景

である。全ての生徒が孤立することなく、多くの友人を得て、楽しく充実した学園生活が送れることを目指している。また、様々な人間関係スキルの獲得と、キャリア意識の刺激と促進を目指し、一人ひとりの生徒の成長をサポートしていくものである。

中学校におけるクラブ活動は、文化部一〇、運動部一六が用意されている。いずれのクラブも高校生と一緒に、中身の濃い活動を行っており、学園生活における大切な時間を彩っている。



北軽井沢高原教室



宿泊体験学習



むらた祭



体育祭(読上暗算)



和のこころプログラム

第三章 村田女子高等学校・村田学園小石川女子中学校のあゆみ

●六年間一貫教育課程

		中学 1 年	中学 2 年	中学 3 年	高校 1 年	高校 2 年		高校 3 年	
						文	理	文	理
国語	国語	5	5	5					
	国語総合				4				
	現代文					2	2	2	2
	古典					2	2	2	
	国語特講Ⅰ				2				
	国語特講Ⅱ					3			
	入試現代文特講							3	
社会	入試古典特講							2	*2
	社会	4	4	4					
	地理								
	世界史B				4				
	日本史B					3	3	2	
	日本史特講					2			
	入試日本史特講							*2	*2
	入試世界史特講							*2	*2
	政治経済							2	2
	倫理							2	2
数学	数学	5	5	5					
	数学Ⅰ				3				
	数学Ⅱ					4	4		
	数学Ⅲ								3
	数学A				2				
	数学B					2	2		
	数学C								2
	入試数学特講							*2	2
理科	理科	3	4	4					
	理科総合A				3				
	理科総合B								
	生物Ⅰ					3	◇5		
	生物Ⅱ								◇3
	化学Ⅰ						3		
	化学Ⅱ								3
	物理Ⅰ						◇5		
	物理Ⅱ								◇3
	理科特講				2				
	入試生物特講							*2	*2
	入試化学特講							*2	*2
	入試物理特講							*2	*2
保体	体育	3	3	3	3	2	2	2	2
	保健				1			1	1
芸術	音楽	1	1	1	1			1	1
	音楽								
家庭	美術	2	1	1					
	美術								
	技術・家庭	2	2	2					
	家庭一般				2				
英語	英語	5	5	5					
	英語Ⅰ				4				
	英語Ⅱ					5	5		
	リーディング							4	4
	ライティング					2	2	2	2
	英文法特講Ⅰ				2				
	英文法特講Ⅱ					2	2		
	入試英語特講							3	1
情報	情報A				2				
	道徳	1	1	1					
	選択						5	4	5
	総合的な学習	2	2	2	1	1	1	1	1
	特別活動(LHR)	1	1	1	1	1	1	1	1
計		34	34	34	37	34	34	34	34

高1から高3は、現高校普通科アドバンスコースのもの。
新課程移行に伴い一部改訂予定。

◇…選択必須科目

*…自由選択科目

村田女子高等学校 略年表

昭和6年3月	村田女子計理学校（6ヶ月制、4年制）村田簿記学校内に併設 校長に村田謙造就任
10月	第1回卒業式
昭和8年4月	東京府より乙種商業学校として認可される
昭和11年10月	創立五周年記念祝賀会（於、軍人会館、現、九段会館）
昭和12年7月	第13回卒業生の発議により、「皇軍慰問街頭募金」敢行、1533円を報知新聞（現、読売新聞）社に寄託
8月	学園新聞「村田学園新聞」創刊
10月	村田簿記学校、速算学校、女子計理学校、3校合同校友会総会（於、目黒雅叙園）
昭和13年4月	募集人数を150名から300名に増員
昭和14年1月	小石川区久堅町に新築移転
昭和18年2月	組織を財団法人とし、文部省認可の甲種女子商業学校に昇格、「村田女子商業学校」と改称
昭和20年5月	校舎を空襲で焼失
昭和21年4月	工場跡の倉庫で授業再開
昭和22年1月	村田簿記学校新校舎2階に移転
昭和23年3月	学制改革により「学校法人村田学園中学校・高等学校」に改組、「村田学園高等学校」と改称
4月	校舎（木造3教室）を被災地に再建／別科（1年制）生、23名入学
昭和26年4月	「村田女子商業高等学校」と改称 第1回生、34名入学（ほかに別科生入学）
昭和28年4月	校舎増築
5月	第1回生徒総会

7月	第1回修学旅行（京都・奈良）3年生
昭和29年4月	学校新聞「村田学報」創刊／別科廃止
6月	第1回同窓会総会
11月	第1回文化祭 第3回校内珠算大会
昭和30年4月	校舎増築
10月	第1回運動会（於、校庭）
昭和31年3月	校友会誌「むらた」創刊
4月	校舎増築 2期制導入
5月	生徒会役員立候補制とする
7月	3年生対象「就職試験準備講座（英・数・国・社、8日間）」始まる 北軽井沢キャンプ、海の学校（千葉県岩井海岸）、富士登山など夏期行事始まる
昭和32年4月	校舎増築
昭和34年10月	学園創立五〇周年記念として、学園教職員、同窓会、生徒一同より校長の寿像が贈呈される （贈呈式・除幕式）
昭和35年12月	第1回スキー教室（新潟県浦佐スキー場）
昭和36年1月	創立三〇周年記念校舎第1期工事完成
10月	第2期工事完成
昭和38年6月	学校新聞「ひさかた」創刊
8月	北軽井沢に村田学園グラウンド完成
昭和39年3月	体育館完成
11月	第1回「むらた祭」

昭和40年7月	北軽井沢高原寮完成
昭和41年7月	第1回北軽井沢教室
昭和42年4月	5階増築工事完成
昭和46年10月	第1回健歩会
昭和49年4月	コース制導入
昭和50年3月	校長村田謙造逝去
4月	第2代校長に村田照子就任
昭和54年6月	第1回漢字書取大会
昭和59年11月	村田学園市川校舎完成／第1回合唱コンクール
昭和61年4月	図書館報「うんてい」創刊
昭和62年4月	パソコン導入
平成4年8月	第1回海外語学研修旅行（於、ワシントン大学）
平成8年4月	「東京経営短大村田女子高等学校」と改称
平成11年3月	文京区本駒込に新築移転
平成13年4月	普通科併設
平成16年9月	学校新聞「ひさかた」100号記念として「村田照子随想集」刊行
平成17年9月	第3代校長に伊藤淑子就任
平成18年6月	村田照子逝去
平成19年3月	村田照子の肖像画が卒業生より献呈される
4月	「村田女子高等学校」と改称
平成20年3月	村田照子の肖像が卒業生、同窓会、謙照会より献呈される（贈呈式・除幕式）
4月	「村田学園小石川女子中学校」併設 校長に伊藤淑子就任